

必

四年

画数 5
筆順 ソ 义 必 必
オン ヒツ
クン かならず

成り立ち



二本の木のえだをむすび、地上に立てた「目じるし」の意味の「弋(式316)」と、「分ける」意味の「八(分2年221)」とを組み合わせた字です。

土地のさかいははつきりさせるためには「かならず」立てるものだから、「かならず」という意味を表すために作られました。

この字は、「心」に「ノ」を加えた形をしていますから、「かならずわすれないように」「心にとめる」という意味だとおぼえた方がよいかもしれません。

使い方

▽あしたから、臨海学校が始まります。海水着やパジャマなど必要な物を用意するのが大変です。でも海で泳いだり、砂浜で砂あそびができるので楽しみます。
▽おねえさんは来年大学を受験するので、「受験者のための必携ノート」という本を買いました。受験者必読の本なのですが、その本を読んでも、必ずしも受かるとは限らないようです。

熟語例

- ▽必要(必ず入要であること。必ず要ること。「必要なことは、手帳にメモをしておくことです」などというふうに、つかいます。)
- ▽必携(必ず持つていなければいけないこと。また、そういうもの。「美術志望者必携の本」などというふうに、つかいます。)
- ▽必読(必ず読まなければいけないこと。「俳句入門者必読の書」などというふうに、つかいます。)
- ▽必勝(必ず勝つこと。「必勝を期して試合に臨む」などというふうに、つかいます。)

票

四年

画数 11
筆順 一 冫 而 西 票 票
オン ヒヨウ
クン

成り立ち



「要(年4630)」の意味の「票」と、「示す」という意味の「示(年732)」とを組み合わせて作った字。

「大事」なことを「示す」という意味の字で「大事なこと」を書き入れる「紙きれ(カード)」を表した字です。【例伝票、証票】

特に、「せんきよ」に使う、「せんきよ」人の名を書き入れる「紙きれ」の意味に使うことがあります。【例投票、開票、得票、白票、票決】

「古」の字は「災」で、舞い上がる「火の粉」が本義の字であるが、この説明ではとても理解しにくいので、現在の字形に基づいて解字したものである。

使い方

- ▽学級委員を投票で決めました。開票の結果、西山君の得票数が第一位でした。中には白票もありましたが、大事な選挙に白票を出すのは良くないことだと思えます。
- ▽おねえさんは、ある会社の事務員です。伝票の整理が大変だそうです。わたしも見たことがあるのですが、何百枚もの伝票がありました。あれを全部整理するのは、本当に大変だろうと思います。

熟語例

- ▽伝票(お金や品物の出し入れや、取り引きの内容などを書いた紙きれ)
- ▽証票(何かを証明するカード)
- ▽投票(選挙や採決の時、人の名前や賛否などを票に書き入れて提出すること。「大事な問題だから全員の投票で決めよう」などというふうに、つかいます。)
- ▽開票(投票箱を開いて、投票の結果を調べること。)
- ▽得票(票を得ること。また、得た票)
- ▽白票(白紙のまま、何も書かれていない票)
- ▽票決(投票で決めること。)